

1 環境モニタリングの概要

女川原子力発電所環境放射能測定基本計画及び同実施計画に基づき、令和3年度に実施した環境モニタリングの概要は、以下のとおりである。

(1) 調査実施期間

令和3年4月から令和4年3月まで

(2) 調査担当機関

	調査担当機関
宮城県	環境放射線監視センター
東北電力(株)	女川原子力発電所

(3) 調査項目

東北電力(株)女川原子力発電所から周辺地域への予期しない放射性物質の放出を監視するため、周辺11か所に設置したモニタリングステーションで空間ガンマ線量率を、また同発電所放水口付近3か所に設置した放水口モニターで海水(放水)中の全ガンマ線計数率を、それぞれ連続で測定した。

また、周辺地域における放射性降下物の状況のほか、人工放射性核種の放射能濃度の推移を把握し、同発電所の運転に伴う環境への放射能の影響の有無を評価するため、各種環境試料について核種分析を行った。

なお、評価にあたっては、原則として原子力発電所から周辺環境へ放出されるおそれのある核種のうち女川原子力発電所環境放射能測定基本計画における環境放射能評価方法において規定する人工放射性核種(以下「対象核種」という。)を対象として行う。

表-1に令和3年度の調査実績を示す。

表－1 令和3年度調査実績^{*1}

調査対象	検出器及び試料名		宮城県		東北電力		合計		
			地点数	測定頻度 または 試料数	地点数	測定頻度 または 試料数	地点数	測定頻度 または 試料数	
空間ガンマ線	線量率	モニタリングステーション(MS)	NaI	7	連続	4	連続	11	連続
			電離箱	7	連続	4	連続	11	連続
		広域MS	電離箱	10	連続			10	連続
		移動観測車	NaI	24 ^{*4}	4回	17	4回	41	各4回
		積算線量	RPLD ^{*2}	19	4回	13	4回	32	各4回
海水(放水)中の全ガンマ線計数率		NaI	/		3	連続	3	連続	
降下物		月間		2	24	2	24	4	48
		四半期間		3	12	2	8	5	20
環境放射能	陸上試料	農産物		3	5	2	3	5	8
		陸水		2	4	1	4	3	8
		陸土		2	2	1	1	3	3
		浮遊じん		2	24	4	32	6	56
		指標植物		2	2	4	9	6	11
	海洋試料	魚介類		8	8	4	6	12	14
		海藻		2	2	1	2	3	4
		海水(共沈法)		3	5	2	8	5	13
		海水(迅速法) ^{*3}		(1)	6	(1)	6	(2)	12
		海底土		3	5	2	8	5	13
		指標海産物(灰化法)		7	14	7	14	14	28
		指標海産物(迅速法) ^{*3}		(6)	12	(6)	12	(12)	24
	降下物及び環境試料数合計			39	125	32	137	71	262

*1 対照地点を含む。

*2 RPLDは蛍光ガラス線量計のことをいう。

*3 共沈法または灰化法に合わせて実施している場合の地点数はカッコ書きとし、合計に含めない。

*4 第1四半期の1地点については、測定地点一帯が工事中のため欠測となった。

2 環境モニタリングの結果

令和3年度の環境モニタリングの結果、周辺11か所に設置したモニタリングステーションの空間ガンマ線量率及び発電所放水口付近3か所に設置した放水口モニターの海水（放水）中の全ガンマ線計数率において、異常な値は観測されなかった。

降下物及び環境試料からは対象核種のうち、Cs（セシウム）-134、Cs-137、Sr（ストロンチウム）-90及びH-3（トリチウム）が検出されたが、他の対象核種については検出されなかった。

以上の環境モニタリングの結果並びに女川原子力発電所の運転状況及び放射性廃棄物の管理状況から判断して、女川原子力発電所に起因する環境への影響は認められず、検出された人工放射性核種は東京電力(株)福島第一原子力発電所事故（以下「福島第一原発事故」という。）と過去の核実験の影響と考えられた。

(1) 原子力発電所からの予期しない放出の監視

イ モニタリングステーションにおけるNaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率

原子力発電所からの予期せぬ放射性物質の放出を監視するため、周辺11か所のモニタリングステーションで、NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率を連続で測定した。その結果を表-2に示す。

現在推移している線量率には、福島第一原発事故により地表面等に沈着した人工放射性核種の影響が認められる。また、一時的な線量率の上昇が観測されているが、これは主に降水による天然放射性核種の降下の影響と考えられ、女川原子力発電所に起因する異常な線量率の上昇は認められなかった。

ロ 海水（放水）中の全ガンマ線計数率

放水口付近の3か所の放水口モニターで海水（放水）中の全ガンマ線計数率を連続で測定した。その結果を表-3に示す。

海水（放水）中の全ガンマ線計数率の変動は降水及び海象条件他の要因による天然放射性核種の濃度の変動によるものであり、女川原子力発電所に起因する異常な計数率の上昇は認められなかった。

表一 2 (1) Na I (T1) 検出器による空間ガンマ線量率測定結果

単位：nGy/h

調査機関	局名	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和3年度測定値	R1~R2年度測定値(参考)*1	
宮城県	女川	平均値	28.9	29.4	29.0	29.0	29.2	29.2	30.0	29.9	29.7	29.2	29.1	29.5	29.3	29.4	
		標準偏差	1.6	2.4	2.3	2.0	2.1	2.0	2.1	3.6	1.7	2.6	1.4	1.4	2.1	2.2	2.2
		最大値	40.7	47.2	50.2	40.8	46.1	51.4	51.4	62.6	45.5	58.7	40.6	38.1	45.9	62.6	61.0
	飯子浜*2	平均値	42.2	42.7	42.5	42.5	42.7	42.7	42.6	43.2	42.8	42.8	42.3	42.5	42.9	42.7	41.8
		標準偏差	1.6	2.2	2.0	1.8	2.0	2.0	2.2	3.4	1.7	2.6	1.3	1.3	2.3	2.1	2.2
		最大値	52.6	57.6	62.0	56.5	57.0	62.0	62.0	68.5	56.5	74.9	57.4	51.7	59.0	74.9	80.6
	小屋取	平均値	49.5	49.7	49.0	48.4	48.0	48.0	48.5	49.0	49.2	48.9	48.8	49.0	49.2	48.9	49.8
		標準偏差	2.0	2.4	2.3	2.0	2.0	2.0	2.2	2.8	1.7	2.5	1.4	1.4	2.5	2.2	2.4
		最大値	62.9	66.1	69.3	63.0	60.9	63.0	65.9	68.3	62.3	77.2	61.6	59.5	68.1	77.2	87.9
	寄磯	平均値	47.2	47.1	46.9	45.4	44.4	44.4	46.5	46.5	47.2	46.4	47.0	46.7	46.7	44.4	44.1
		標準偏差	37.0	37.4	36.7	36.4	36.7	36.4	36.7	37.3	37.1	37.0	36.7	36.1	36.6	36.8	38.0
		最大値	49.0	51.6	50.5	53.4	50.9	53.4	58.7	58.0	51.7	56.9	50.1	44.2	52.3	58.7	81.2
	鮫浦*2	平均値	35.3	35.1	34.9	34.3	34.3	34.3	35.0	35.1	35.0	35.1	35.2	34.6	34.7	34.3	34.8
		標準偏差	50.4	51.2	52.3	51.5	51.3	51.5	50.5	50.6	50.1	50.0	49.4	49.3	50.1	50.6	50.9
		最大値	61.4	67.3	72.8	64.3	66.0	74.1	74.1	76.3	64.2	77.1	65.7	60.0	65.5	77.1	98.2
	谷川*2	平均値	48.5	48.1	50.0	48.4	48.2	48.4	48.3	48.1	48.1	47.2	47.8	47.3	47.9	47.2	46.4
		標準偏差	49.4	49.8	49.7	48.8	48.9	48.8	48.8	49.4	49.3	49.0	48.6	48.6	49.2	49.1	49.8
		最大値	60.6	66.4	70.3	59.5	64.1	70.3	70.3	75.7	65.1	73.5	61.3	58.6	64.6	75.7	94.7
荻浜*2	平均値	47.3	46.9	47.5	46.1	45.8	46.1	46.8	46.4	47.5	46.4	46.9	46.8	46.6	45.8	45.6	
	標準偏差	55.0	55.4	55.3	54.6	54.9	54.6	54.5	54.9	55.1	54.9	54.4	54.5	54.8	54.9	55.5	
	最大値	66.8	70.6	75.8	63.6	71.4	78.3	78.3	84.3	68.3	84.3	64.3	64.0	69.6	84.3	89.9	
		最小値	53.2	52.7	53.1	52.3	51.8	52.5	52.6	53.3	52.3	52.7	52.3	52.5	51.8	51.6	

*1 参考値は令和元年度及び令和2年度の2年間の10分値に基づく統計値である。

*2 震災で被災したモニタリングステーションを移転、再建し、平成31年4月から測定を開始した。

令和3年度

表一2 (2) NaI (Tl) 検出器による空間ガンマ線量率測定結果

単位：nGy/h

調査機関	局名	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和3年度測定値*1	R1~R2年度測定値(参考)*2	
東	塚浜	平均値	49.3	49.6	49.4	48.8	48.8	48.5	49.3	49.1	49.2	48.8	48.6	48.7	49.0	50.1	
		標準偏差	2.0	2.7	2.4	2.4	2.3	2.4	2.4	3.4	1.8	2.9	1.6	1.4	2.6	2.4	2.5
		最大値	64.2	69.5	71.4	66.5	65.5	70.6	72.7	72.7	64.1	84.0	64.5	58.7	68.1	84.0	95.6
		最小値	47.2	46.8	47.2	46.2	46.2	46.2	46.4	46.7	47.3	46.7	46.8	46.7	46.4	46.2	46.2
北	寺間	平均値	39.9	39.9	39.4	39.0	39.1	39.1	39.7	39.6	39.8	39.5	39.5	39.5	39.5	39.5	40.3
		標準偏差	1.8	2.3	2.2	2.1	2.0	2.1	2.4	3.0	1.6	2.4	1.4	1.4	2.4	2.2	2.2
		最大値	55.3	56.4	58.6	54.1	52.2	54.1	60.9	63.6	56.7	67.9	55.2	55.6	57.2	67.9	78.3
		最小値	38.0	37.6	37.7	36.9	36.8	36.9	37.1	37.4	37.7	37.9	38.0	37.7	37.7	36.8	37.1
電	江島	平均値	33.3	33.5	32.9	32.5	32.7	32.7	33.6	33.5	33.7	33.6	33.6	33.6	33.5	33.3	33.7
		標準偏差	1.7	2.2	2.2	1.7	1.9	1.7	1.9	2.5	1.5	2.2	1.2	1.6	2.3	2.0	2.1
		最大値	47.6	48.1	57.4	44.6	44.8	44.6	54.7	51.6	48.0	59.4	44.7	53.0	49.5	59.4	76.6
		最小値	31.8	31.2	31.3	30.8	30.6	30.8	31.2	31.5	31.3	31.8	32.0	31.9	31.5	30.6	30.6
力	前網	平均値	56.2	56.2	55.3	54.5	54.6	54.9	55.4	55.7	55.6	55.4	55.4	55.4	55.7	55.4	56.4
		標準偏差	1.6	2.2	2.0	1.8	1.7	1.8	2.0	2.7	1.5	2.2	1.3	1.3	2.1	2.0	2.1
		最大値	68.6	69.4	74.9	69.5	67.4	69.5	77.3	74.4	70.9	79.9	69.5	66.0	69.7	79.9	95.7
		最小値	54.0	53.6	53.0	52.1	51.9	52.1	53.1	52.9	53.9	53.4	53.8	53.3	53.4	51.9	52.2

*1 令和3年度1年間の10分値に基づく統計値である。

*2 令和元年度及び令和2年度の10分値に基づく統計値である。

表-3 海水（放水）中の全ガンマ線計数率測定結果

単位：c p m

調査機関	局名	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和3年度測定値	R1~R2年度測定値(参考)*1	
東北電力	1号機放水口モニタ- (A)	平均	307	301	402	301	295	295	288	287	290	282	280	278	301	278	
		標準偏差	26	26	71	55	18	55	11	10	16	15	15	17	13	45	19
		最大	427	482	791	871	388	871	347	366	386	366	368	383	354	871	631
		最小	267	260	261	257	260	257	267	263	253	257	249	248	242	242	220
	1号機放水口モニタ- (B)	平均	286	282	380	280	274	280	275	266	266	267	276	267	260	282	261
		標準偏差	27	29	77	56	18	56	10	10	15	14	14	16	11	45	18
		最大	411	471	792	855	361	855	322	351	346	350	358	368	318	855	591
		最小	245	238	237	233	241	233	238	238	239	237	247	239	229	229	211
	2号機放水口モニタ-	平均	421	425	430	426	425	426	424	426	427	424	426	422	414	424	424
		標準偏差	8	7	9	9	8	9	7	7	7	8	7	8	7	9	8
		最大	453	454	460	456	454	456	451	457	460	452	454	446	444	460	465
		最小	395	400	393	389	399	389	398	401	401	398	399	398	391	389	394
3号機放水口モニタ-	平均	468	469	469	468	469	468	469	470	475	473	476	474	470	471	475	
	標準偏差	9	8	8	9	8	9	9	8	8	8	8	7	8	9	9	
	最大	504	495	499	500	498	500	501	504	504	507	509	503	509	509	541	
	最小	440	441	443	432	444	432	436	443	449	445	448	452	441	432	435	

*1 令和元年度及び令和2年度の2年間の10分値（福島第一原発事故後）に基づく統計値である。

(2) 周辺環境の保全の確認

空間ガンマ線量率等のレベル並びに放射性核種の濃度及び分布について調査した結果、女川原子力発電所の影響は認められなかった。

イ 電離箱検出器による空間ガンマ線量率

図-1に、モニタリングステーションにおける電離箱検出器による空間ガンマ線量率の測定結果を示す。福島第一原発事故前から測定している局においては、寄磯局を除き同事故前の測定値の範囲内であった。寄磯局においては、最小値が同事故前の範囲を下回った。

ロ 放射性物質の降下量

表-4-1及び表-4-2に、降下物中の対象核種のうち、Mn（マンガン）-54、Co（コバルト）-58、Fe（鉄）-59、Co-60、Cs-134、Cs-137について分析した結果を示す（対照地点を除く）。なお、本期間における欠測はなかった。

分析の結果、Cs-134及びCs-137が検出されたが、これまでの推移や他の対象核種が検出されていないこと、女川原子力発電所の運転状況及びCs-134とCs-137の放射能比等から、福島第一原発事故の影響によるものと考えられる。

図-2に昭和61年度以降のCs-137に係る月間降下量（検出下限値以上。以下同じ。）及び図-5に福島第一原発事故後のCs-137に係る四半期間降下量について、それぞれの推移を示す。

ハ 環境試料の放射性核種濃度

人工放射性核種の分布状況や推移等を把握するため、降下物以外の種々の環境試料についても核種分析を実施した。なお、本期間における欠測はなかった。

表-4-3に迅速法による海水、アラメ及びエゾノネジモク中のI（ヨウ素）-131の分析結果を示す。周辺海域及び対照海域のエゾノネジモク2検体から検出されたが、Cs-137等の対象核種の検出状況及び女川原子力発電所の運転状況から、同発電所由来のものではないと考えられる。

表-5に環境試料の核種分析結果の概要を示す（対照地点を除く）。また、図-3及び図-4には、昭和56年度からの、図-6から図-28には、福島第一原発事故後の各種環境試料中における人工放射性核種濃度（検出下限値以上）の推移を示した。

対象核種については、大根の根、陸水、浮遊じん、マガキ、マボヤ、エゾアワビ及びワカメ以外の試料からCs-137が検出されたが、精米、陸土、ヨモギ及び海底土を除き同事故前における測定値の範囲内であった。精米、陸土、ヨモギ及び

海底土の放射能濃度は同事故前における測定値の範囲を超過していたが、その推移やCs-134が検出された試料もあることから、その原因は同事故の影響によるものと考えられる。エゾノネジモクについては、令和元年度から測定を開始しており、測定値は令和元年度から令和2年度までの測定値の範囲内であった。

また、Sr-90については、陸土、ヨモギ、松葉、ワカメ、海水、アラメ及びエゾノネジモクの試料から検出されたが、陸土及びエゾノネジモクを除き同事故前における測定値の範囲内であった。陸土については、同事故前における測定値の範囲を下回った。エゾノネジモクについては、測定値は令和元年度から令和2年度までの測定値と同程度であった。

H-3については、陸水の試料から検出されたが、同事故前における測定値の範囲内であった。

これら以外の対象核種については、いずれの試料からも検出されなかった。

ニ 蛍光ガラス線量計による空間ガンマ線積算線量

周辺環境における空間ガンマ線の積算線量を把握するため、蛍光ガラス線量計（RPLD）による測定を実施した。

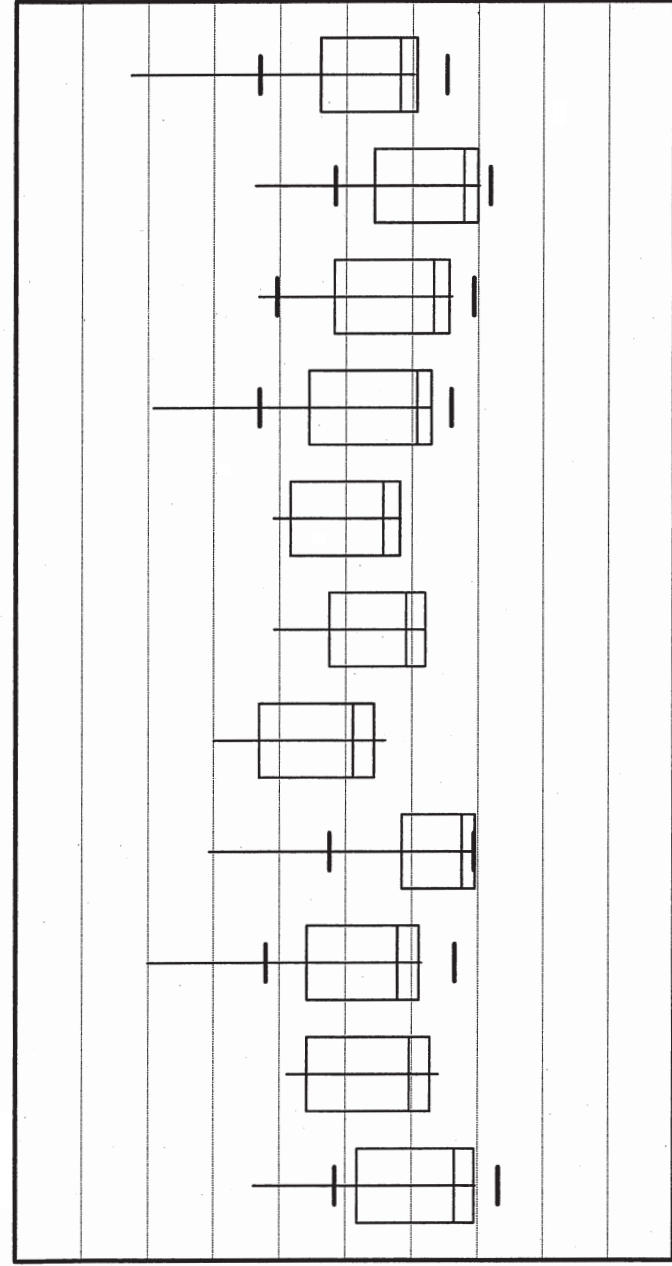
その結果を表-6に示す。年間積算値は、福島第一原発事故前の測定値の範囲内であった。

ホ 移動観測車による空間ガンマ線量率

モニリングステーションが設置されていない地点における空間ガンマ線量率を把握するため、NaI(Tl)検出器を搭載した移動観測車による測定を実施した。

その結果を表-7に示す。四半期毎の測定値の最大値は、福島第一原発事故前における測定値の範囲を超過していたが、その原因は同事故の影響によるものと考えられた。

nGy/h



凡例

- ← 福島第一原発事故後(平成23年度以降)の最大値
- ← 福島第一原発事故前(平成22年度以前)の最大値
- ← 今年度の最大値
- ← 今年度の平均値
- ← 福島第一原発事故後(平成23年度以降)の最小値
- ← 今年度の最小値
- ← 福島第一原発事故前(平成22年度以前)の最小値

女川 飯子浜 小屋取 寄磯 鮫浦 谷川 荻浜 塚浜 寺間 江島 前網 局名

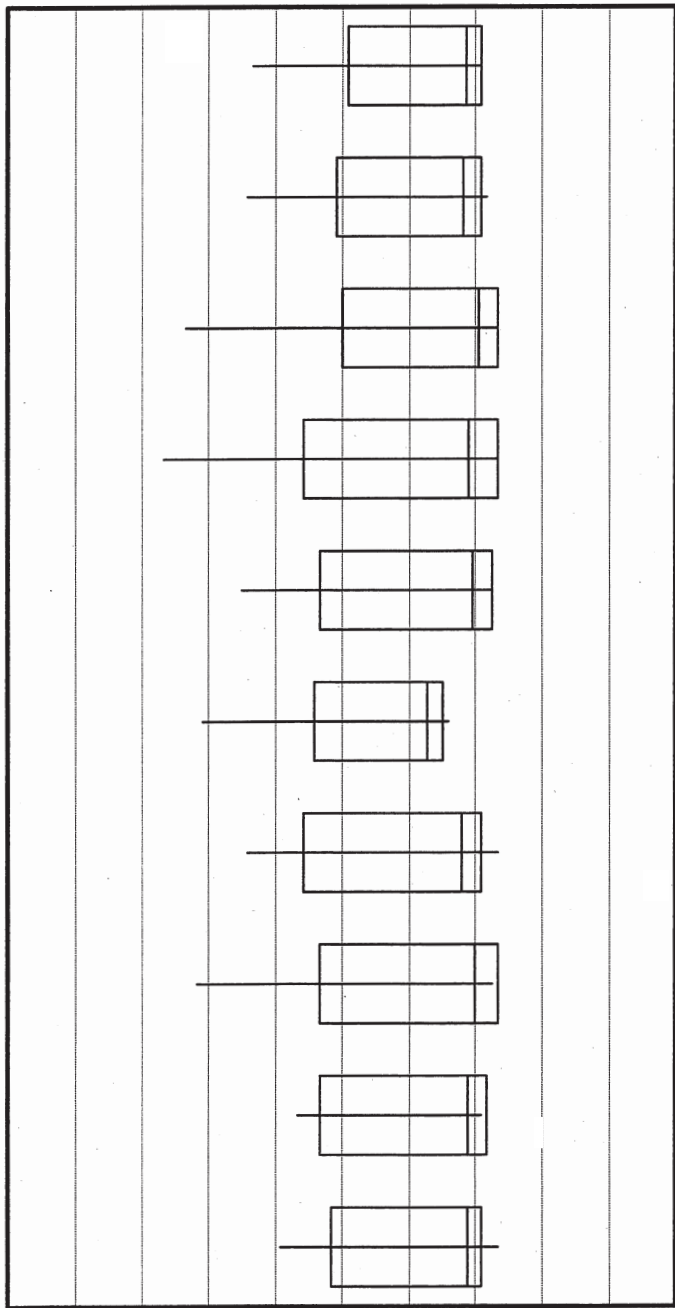
図-1 電離箱検出器による空間ガンマ線量率測定結果

- (注1) 過去の最大・最小値は、小屋取については昭和57年度から、女川、寄磯局については昭和58年度から、塚浜、寺間、江島、前網局については昭和59年度からの測定に基づく値である。
- (注2) 震災の影響により全局測定を停止したが、女川、寄磯及び前網局は平成23年4月に、小屋取、塚浜局は同年5月に、寺間局は同年6月に、江島局は同年9月に復旧した。
- (注3) 飯子浜、鮫浦、谷川及び荻浜(旧小磯)局については、震災後、移転再建し、平成31年4月から測定を開始した。

令和3年度

nGy/h

200



線量率

石巻稲井 雄勝 河南 河北 北上 鳴瀬 南郷 涌谷 津山 志津川 局名

(参考) 広域モニタリングステーション*における電離箱検出器による空間ガンマ線量率測定結果

* 原子力規制委員会「原子力災害対策指針」に示された「緊急防護措置を準備する区域 (UPZ)」内で県が平成25年度から運用を開始したモニタリングステーションをいう。

令和3年度

表-4-1 月間降下物（雨水・ちり）中の放射性核種分析結果*1

核種	令和3年度測定値*2		前年度までの測定値*3		単位
			(上段) 平成2年度～平成23年2月 (下段) 平成23年3月～令和2年度		
	試料数	最小値～最大値	試料数	最小値～最大値	
Mn-54	36	N D	749	N D	Bq/m ²
Co-58		N D		N D	
Fe-59		N D		N D	
Co-60		N D		N D	
Cs-134		N D～0.068	354	N D	
Cs-137		N D～1.46		N D～9329	
				N D～9248	

*1 N Dは検出下限値未満であることを示す。

*2 女川町浦宿浜（女川オフサイトセンター）、小屋取及び牡鹿ゲートにおける測定値を示し、対照地点（仙台市宮城野区幸町（環境放射線監視センター））の測定値を除く。

*3 女川町浦宿浜（女川宿舎）、旧原子力センター（女川）、小屋取及び牡鹿ゲートにおける測定値の範囲を福島第一原発事故の前後に分けて示し、対照地点（保健環境センター、旧原子力センター（仙台）及び仙台市宮城野区幸町（環境放射線監視センター））の測定値を除く。

表-4-2 四半期間降下物（雨水・ちり）中の放射性核種分析結果*1

核種	令和3年度測定値*2		前年度までの測定値*3		単位
			(上段) 平成11年度～平成22年12月 (下段) 平成23年1月～令和2年度		
	試料数	最小値～最大値	試料数	最小値～最大値	
Mn-54	20	N D	231	N D	Bq/m ²
Co-58		N D		N D	
Fe-59		N D		N D	
Co-60		N D		N D	
Cs-134		N D	178	N D	
Cs-137		N D～1.42		N D～8615	
				N D～8438	

*1 N Dは検出下限値未満であることを示す。

*2 飯子浜、鮫浦、谷川浜、塚浜及び付替県道における測定値を示す。

*3 飯子浜、鮫浦、谷川浜、尾浦、渡波、大原、塚浜及び付替県道における測定値の範囲を福島第一原発事故の前後に分けて示す。

表-4-3 迅速法による海水、アラメ及びエゾノネジモク中のI-131分析結果*1

試料名	採取海域	令和3年度測定値		(参考)過去の測定値範囲*2		単位
				(上段)平成18年度～平成22年度 (下段)平成23年度～令和2年度		
		試料数	最小値～最大値	試料数	最小値～最大値	
海水	放水口付近	12	ND	31	ND	mBq/L
				116	ND	
アラメ	放水口付近	2	ND	52	ND～0.30	Bq/kg 生
				29	ND	
	前面海域	2	ND	24	ND～0.13	
				32	ND～1.34	
	周辺海域	2	ND	20	ND～0.13	
26				ND～0.11		
対照海域	6	ND	62	ND～0.47		
87	ND～0.41					
エゾノ ネジモク	放水口付近	2	ND	-	-	Bq/kg 生
				4	ND	
	前面海域	2	ND	-	-	
				4	ND	
	周辺海域	2	ND～0.17	-	-	
4				ND		
対照海域	6	ND～0.13	-	-		
8	ND					

*1 NDは検出下限値未満であることを示す。

*2 参考として海水については平成20年度～令和2年度の測定値の範囲を、アラメについては平成18年7月～令和2年度の測定値の範囲を、エゾノネジモクについては令和元年度～2年度の測定値の範囲を、それぞれ福島第一原発事故の前後に分けて示す。

表-5 環境試料の核種分析結果*1

対象物	試料名	核種	令和3年度測定値			前年度までの測定値*2				単位
						平成22年度～平成23年度		平成24年度～令和2年度		
			試料数	最小値	～	最大値	最小値	～	最大値	
農産物	精米	Sr-90	2	N D		N D ～ 0.0089 *3		N D		Bq/kg生
		Cs-137	2	0.018	～	0.074	N D ～ 0.035 *3		0.016 ～ 0.214	
	大葉根	Cs-137	3	N D ～ 0.053		N D ～ 0.085		N D ～ 1.11		Bq/kg生
		Cs-137	3	N D		N D ～ 0.015		N D ～ 0.588		Bq/kg生
陸水	水道原水(飲料水)	H-3	6	N D ～ 350		N D ～ 3200		N D ～ 610		mBq/L
		Cs-137	8	N D		N D		N D ～ 282		
陸土	未耕土	Sr-90	1	1.2		1.3 ～ 1.6 *4		1.1 ～ 2.6		Bq/kg乾土
		Cs-137	2	23.5 ～ 218		N D ～ 13.1 *4		25.3 ～ 317		
浮遊じん	浮遊じん	Cs-137	56	N D		N D		N D ～ 23.70		mBq/m ³
指標植物	ヨモギ	Sr-90	2	0.15 ～ 0.23		0.065 ～ 1.00		0.029 ～ 0.54		Bq/kg生
		Cs-137	2	0.53 ～ 0.57		N D ～ 0.17		0.29 ～ 40.1		
	松葉	Sr-90	1	1.06		0.86 ～ 1.83		0.87 ～ 2.10		Bq/kg生
		Cs-137	8	0.219 ～ 0.41		N D ～ 0.74		0.219 ～ 1476		
魚介類	アイナメ	Sr-90	2	N D		N D ～ 0.011		N D		Bq/kg生
		Cs-137	3	0.132 ～ 0.19		0.062 ～ 0.21		0.12 ～ 10.16		
	マガキ	Sr-90	2	N D		N D		N D ～ 0.034		Bq/kg生
		Cs-137	5	N D		N D ～ 0.058		N D ～ 1.13		
	マボヤ	Sr-90	2	N D		N D		N D		Bq/kg生
		Cs-137	3	N D		N D ～ 0.054		N D ～ 0.74		
	エゾアワビ	Cs-137	1	N D		N D ～ 0.053		N D ～ 0.22		Bq/kg生
	キタムラサキウニ	Cs-137	1	0.048		N D ～ 0.063 *5		0.035 ～ 1.66		Bq/kg生
海藻	ワカメ	Sr-90	2	N D ～ 0.062		N D ～ 0.081		N D ～ 0.056		Bq/kg生
		Cs-137	4	N D		N D ～ 0.080		N D ～ 2.39		
海水	表層水	H-3	6	N D		N D ～ 670		N D		mBq/L
		Sr-90	1	1.6		N D ～ 2.9		1.4 ～ 3.6		
		Cs-137	12	N D ～ 3.0		N D ～ 4.1		N D ～ 98		
海底土	表層土(砂)	Sr-90	1	N D		N D		N D		Bq/kg乾土
		Cs-137	12	N D ～ 9.0		N D ～ 2.6		N D ～ 299		
指標海産物	アラメ	Sr-90	2	N D ～ 0.039		N D ～ 0.073		N D ～ 0.046		Bq/kg生
		Cs-137	6	0.068 ～ 0.12		N D ～ 0.16		N D ～ 12.76		
	エゾノネジモク	Sr-90	2	N D ～ 0.061		—		N D ～ 0.045 *6		Bq/kg生
		Cs-137	6	N D ～ 0.062		—		N D ～ 0.13 *6		
	ムラサキイガイ	Sr-90	1	N D		N D		N D		Bq/kg生
		Cs-137	4	N D ～ 0.082		N D ～ 0.096		N D ～ 0.54		

*1 Cs-137、Sr-90及びH-3の測定値を示し、対照地点で採取された試料並びに迅速法による海水、アラメ及びエゾノネジモクの測定値を除く。なお、N Dは検出下限値未満であることを示す。

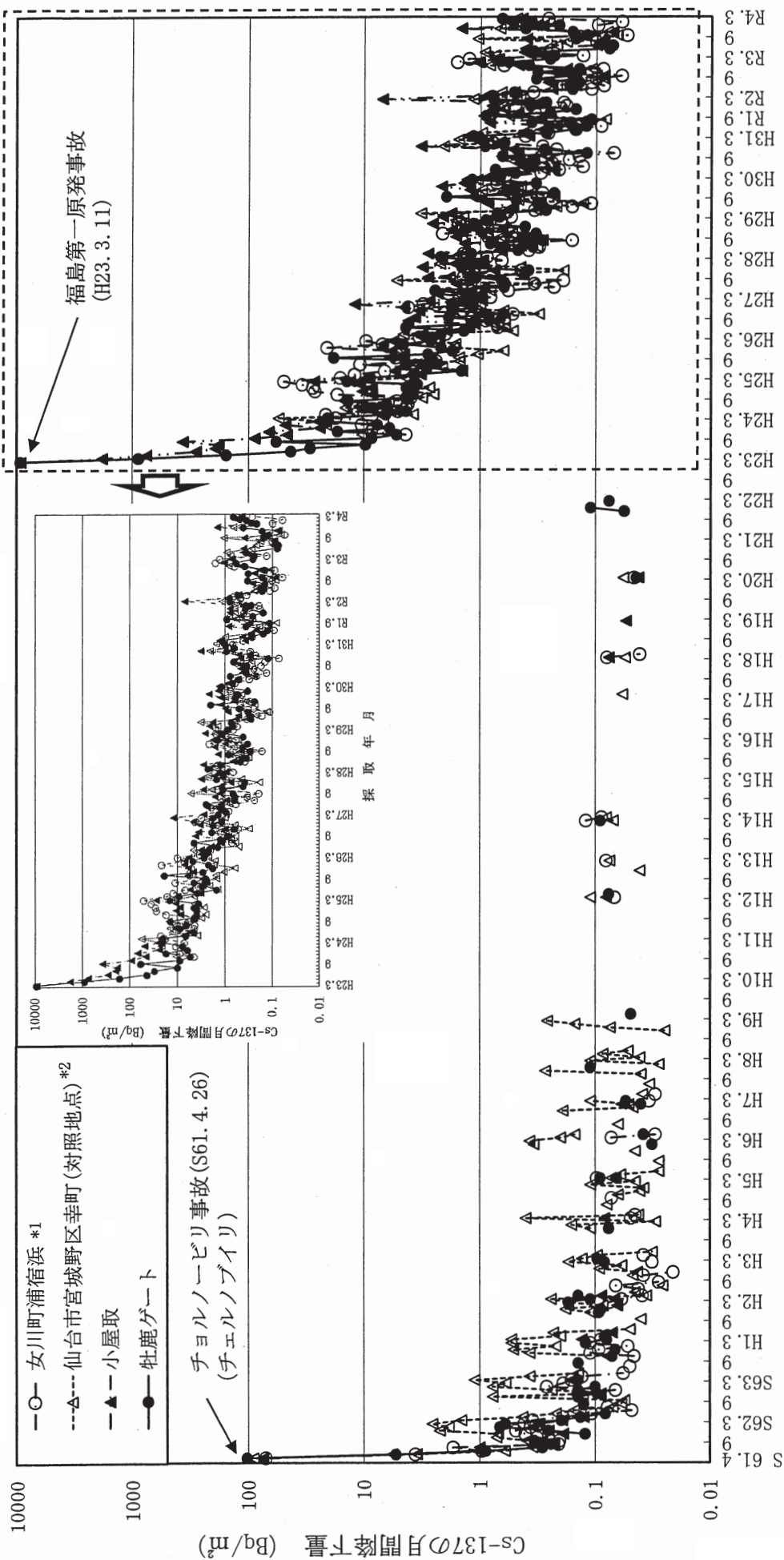
*2 福島第一原発事故の前後に分けて示す。

*3 平成11年度の測定基本計画変更によって測定地点が谷川浜のみとされたため、精米の平成22年度～23年度については谷川浜における測定値の範囲を示す。

*4 平成21年度の測定実施計画変更によって測定地点が変更されたため、平成21年度～22年度における測定値の範囲を示す。

*5 平成11年度の測定基本計画変更によって追加された試料であるため、平成11年度～22年度における測定値の範囲を示す。

*6 令和元年度の測定基本計画変更によって追加された試料であるため、令和元年度～令和2年度における測定値の範囲を示す。



採取年月

図-2 Cs-137の月間降下量の推移

*1 平成23年8月10日以降、採取地点を女川町女川浜の旧原子力センターから同町浦宿浜の女川宿舎に変更している。

また、令和3年4月1日以降、採取場所を女川町浦宿浜地内の女川宿舎から女川オアサイトセンターに変更している。

*2 平成24年8月30日以降、採取地点を仙台市宮城野区幸町の保健環境センターから仙台市宮城野区安養寺の原子力センターに、平成27年3月30日以降、同区幸町の環境放射線監視センターに変更している。なお、平成9年4月1日以降、仙台市宮城野区幸町の保健環境センターにおける採取場所を建物屋上から前庭地上へ変更した。

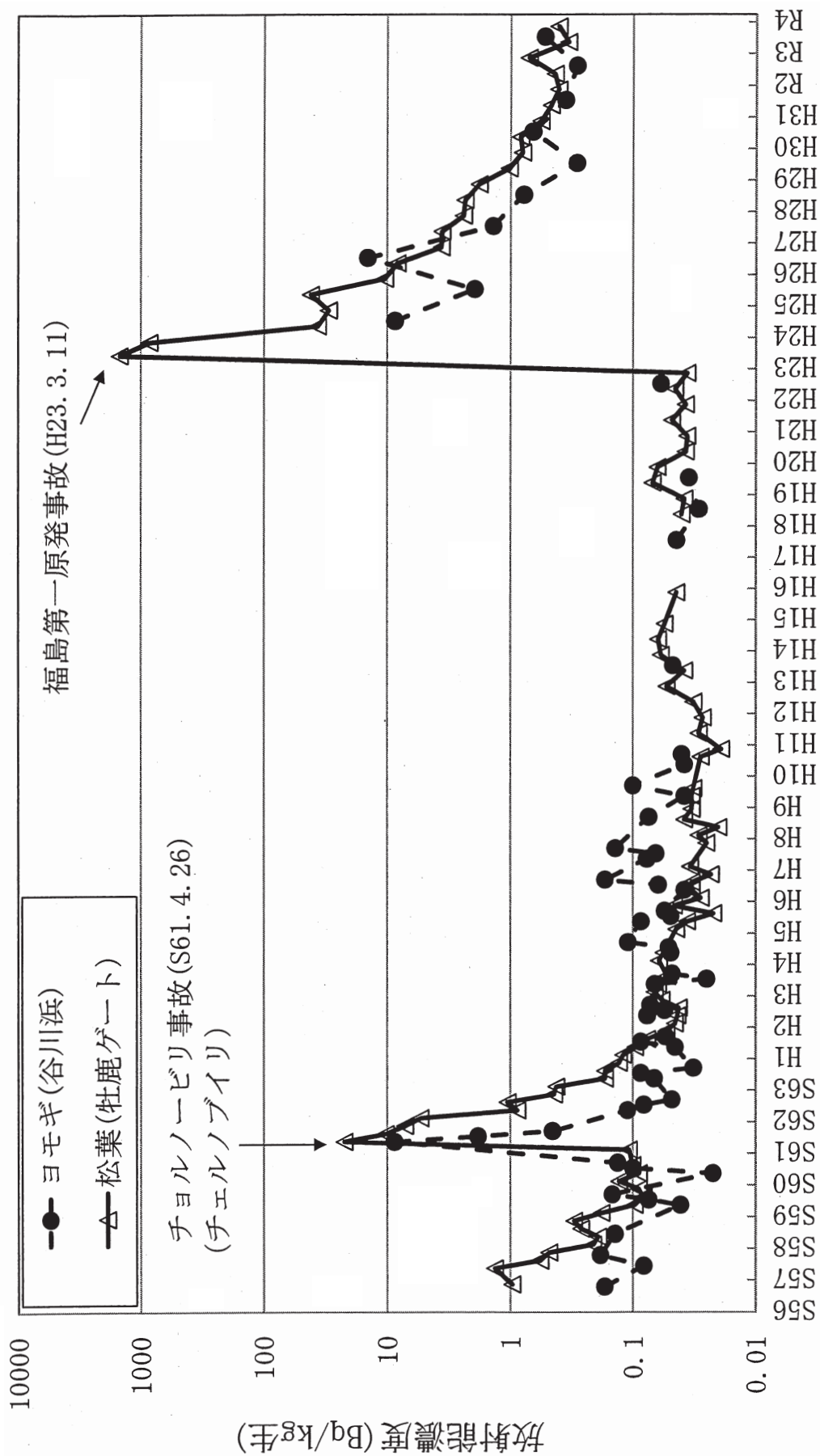


図-3 陸上試料中のCs-137濃度の推移

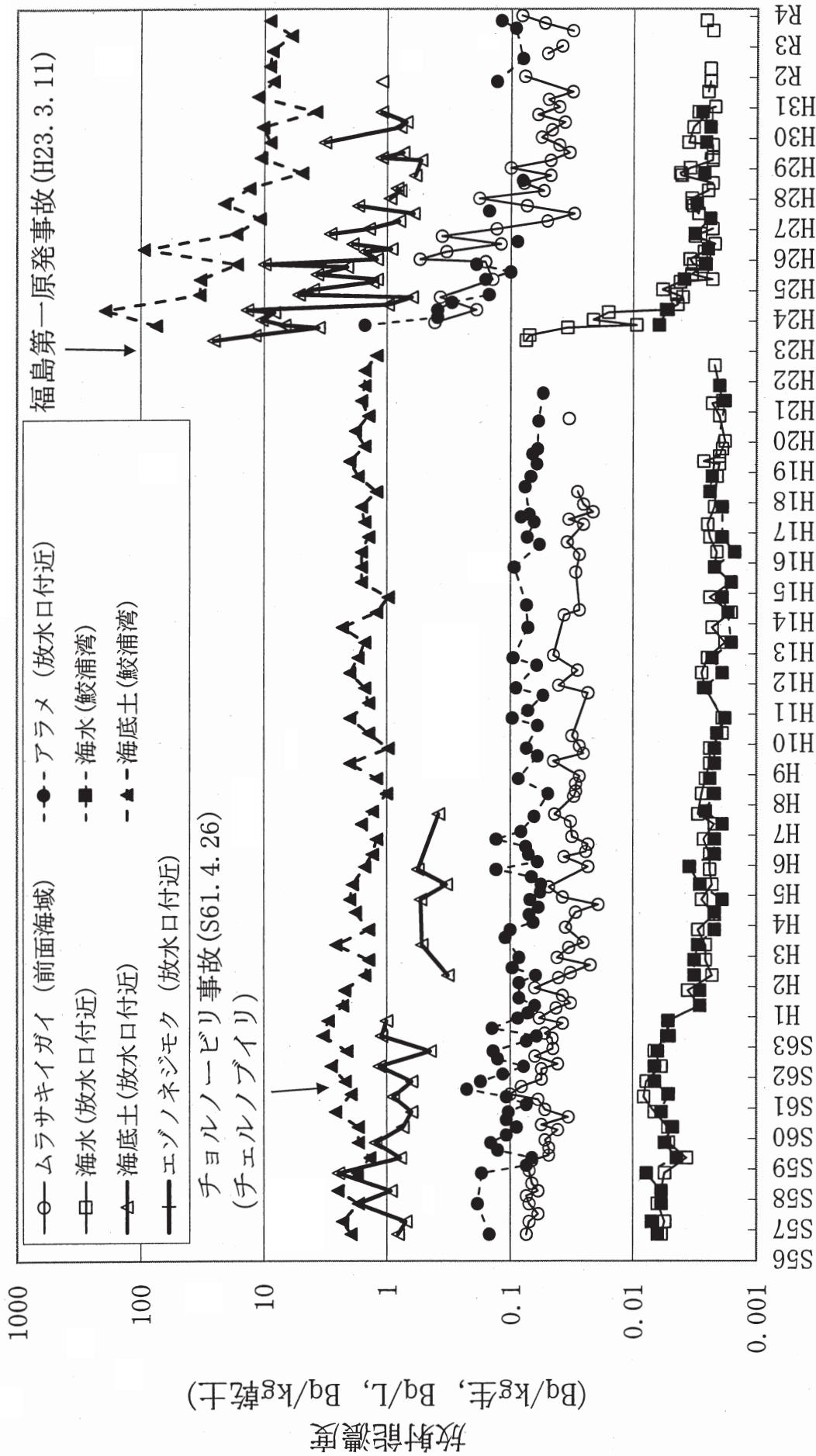


図-4 海洋試料中のCs-137濃度推移

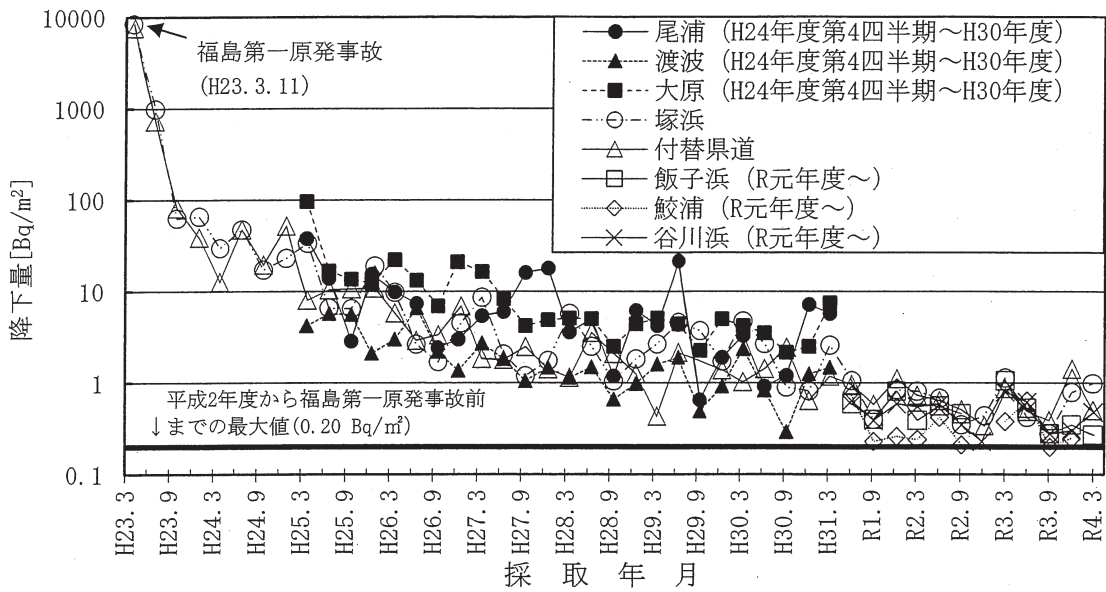


図-5 Cs-137の四半期間下量の推移

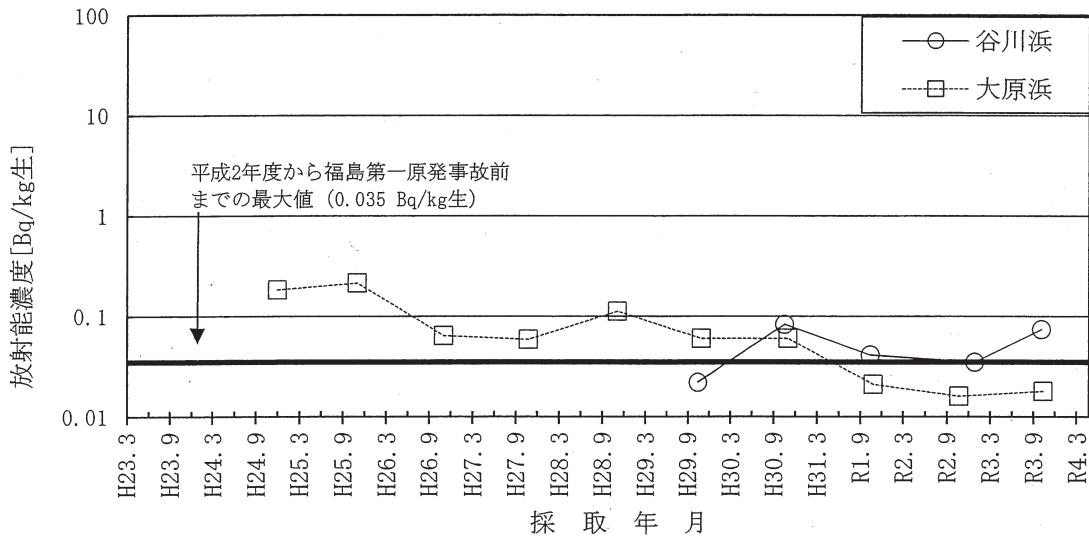


図-6 精米のCs-137濃度の推移

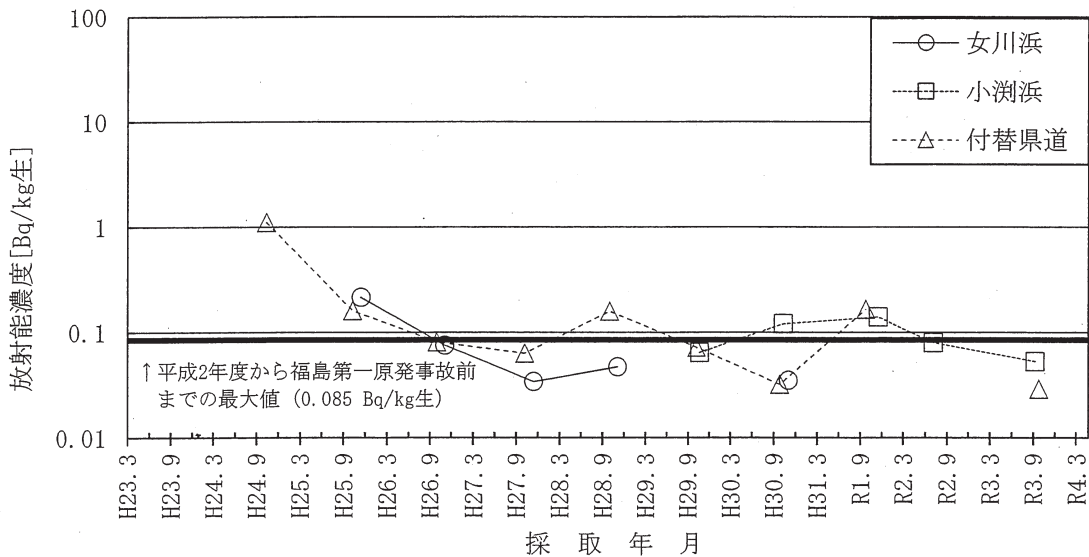


図-7 大根(葉)のCs-137濃度の推移

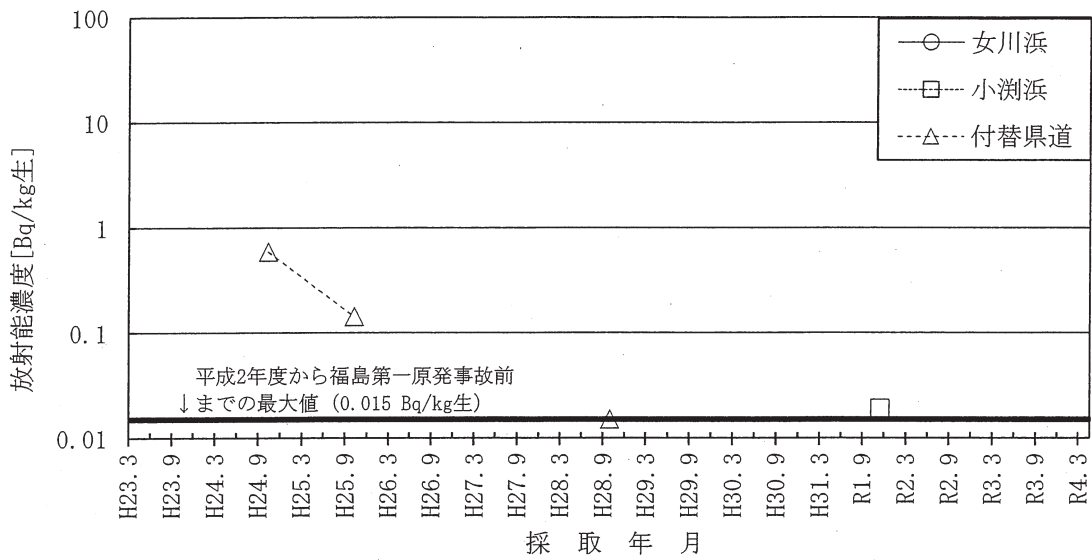


図-8 大根(根)のCs-137濃度の推移

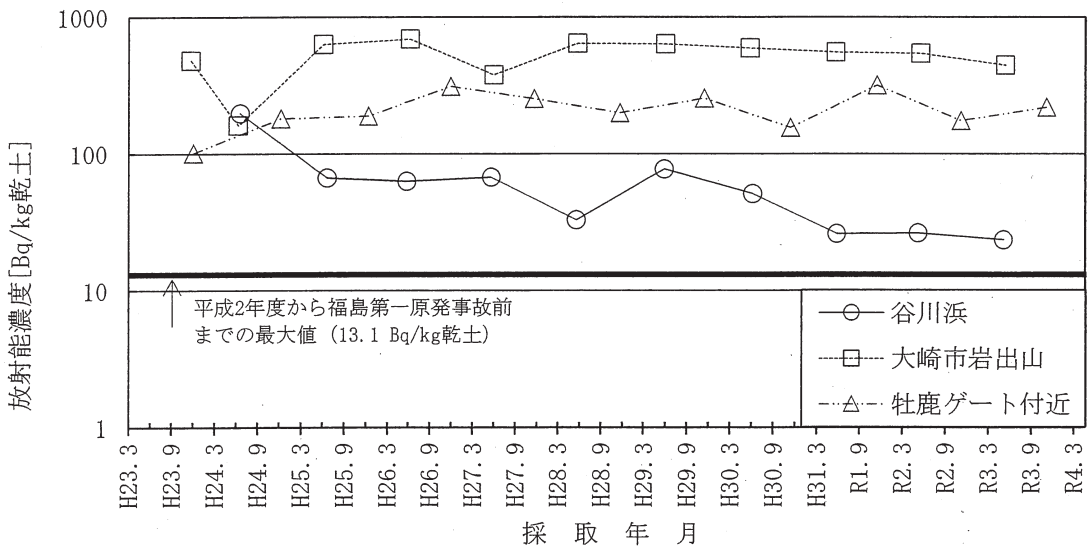


図-9 陸土のCs-137濃度の推移

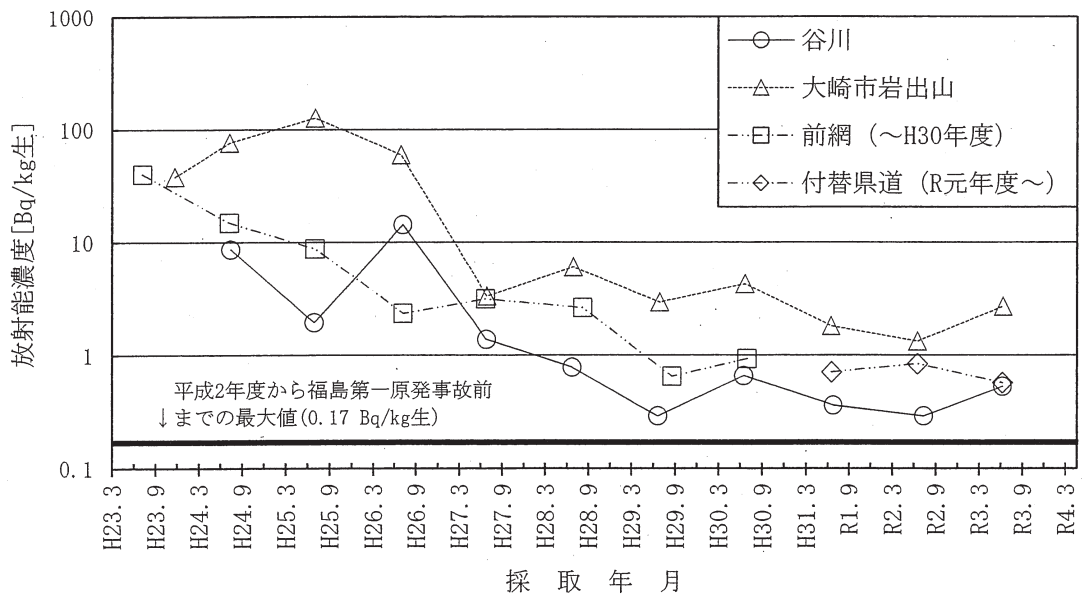


図-10 コメのCs-137濃度の推移

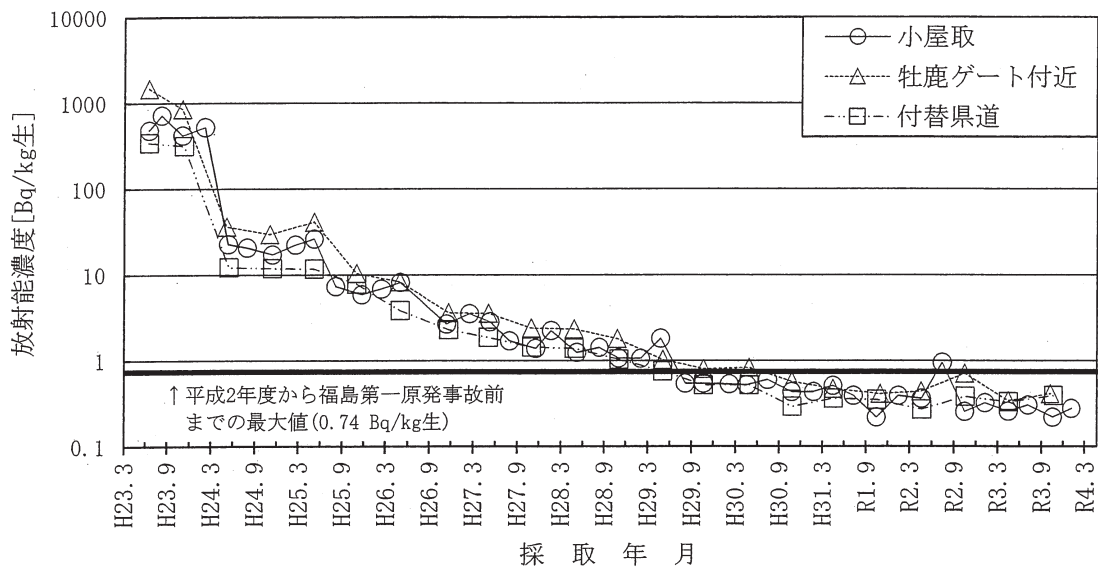


図-11 松葉のCs-137濃度の推移

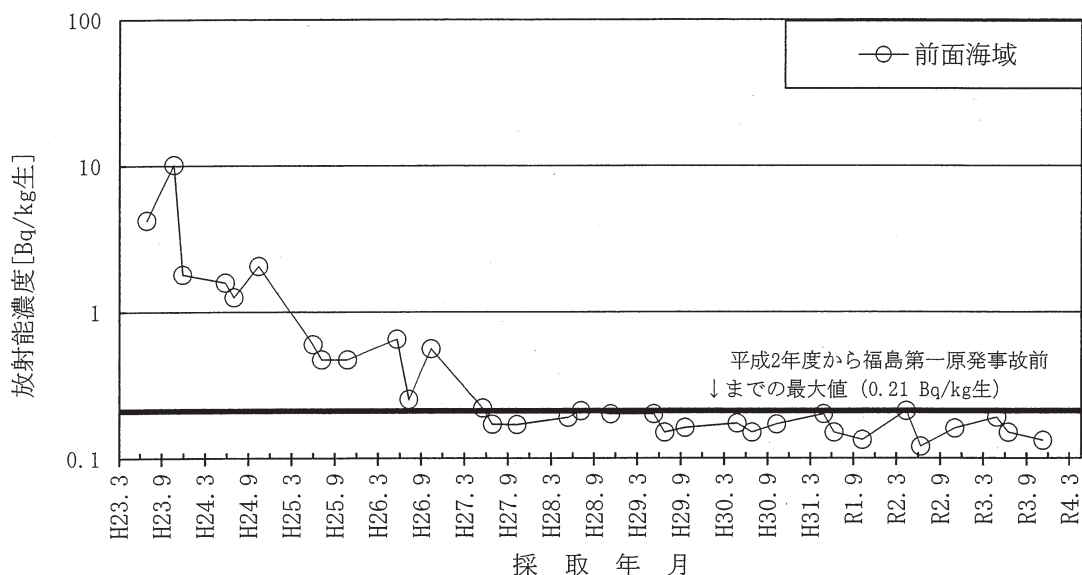


図-12 アイナメのCs-137濃度の推移

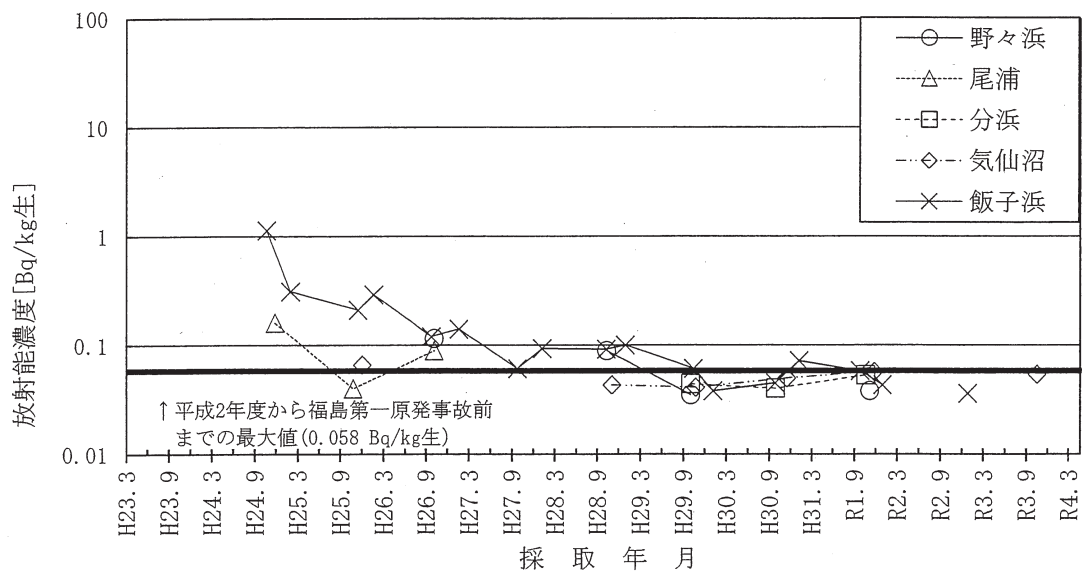


図-13 マガキのCs-137濃度の推移

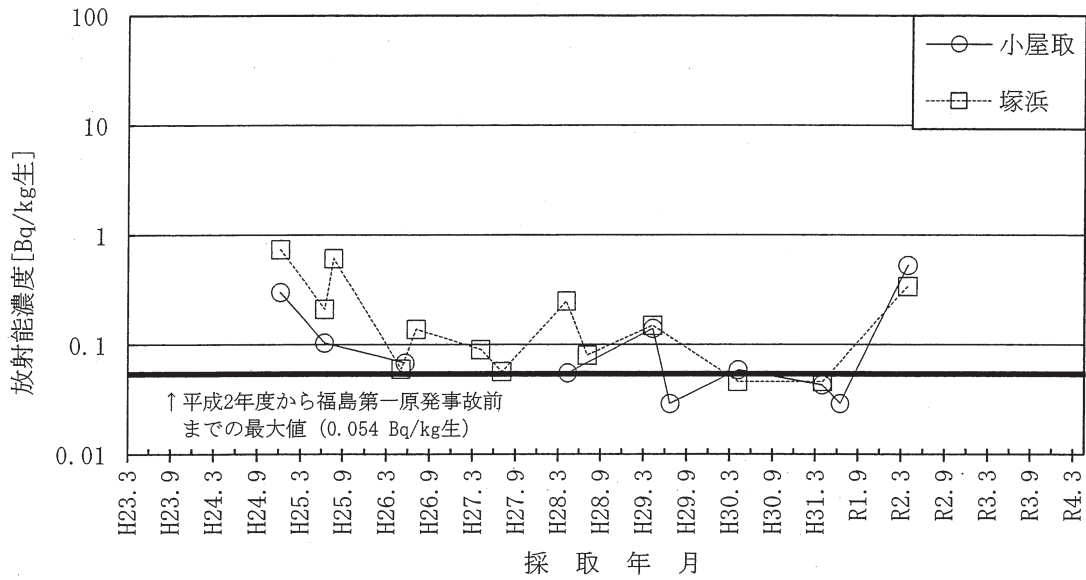


図-14 マボヤのCs-137濃度の推移

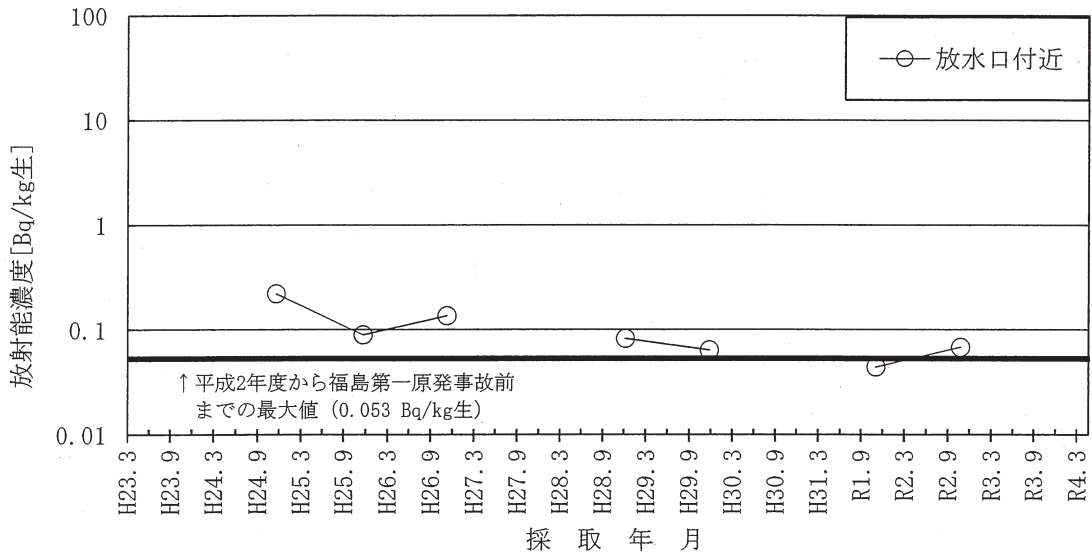


図-15 エゾアワビのCs-137濃度の推移

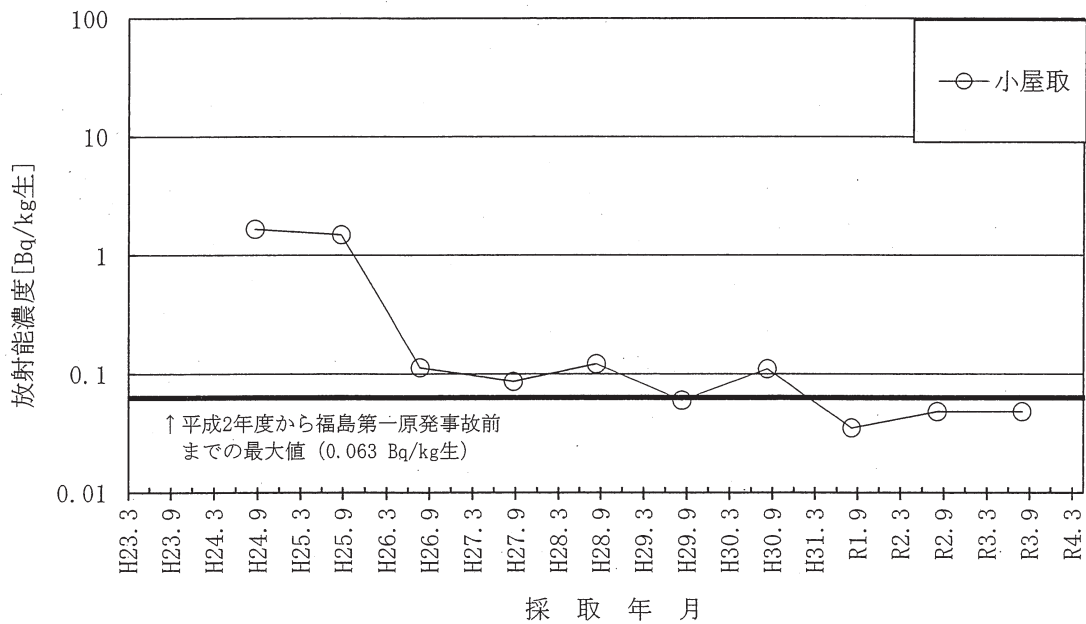


図-16 キタムラサキウニのCs-137濃度の推移

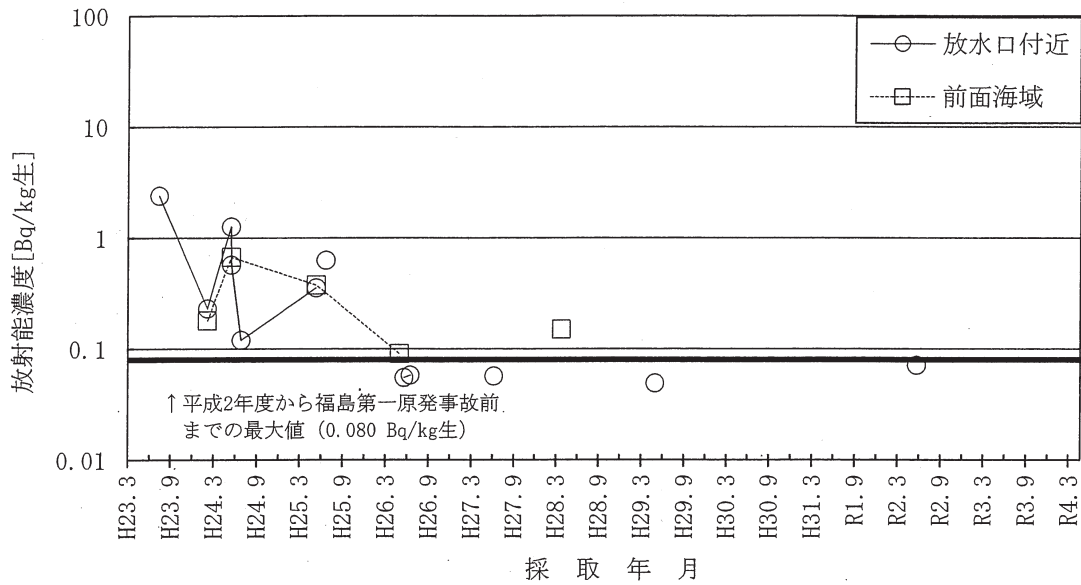


図-17 ワカメのCs-137濃度の推移

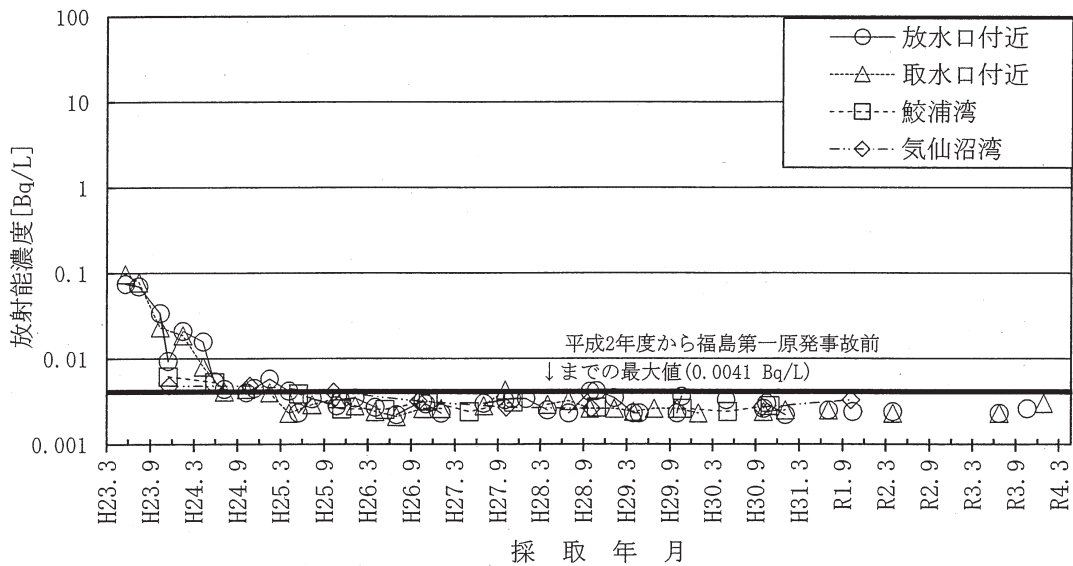


図-18 海水のCs-137濃度の推移

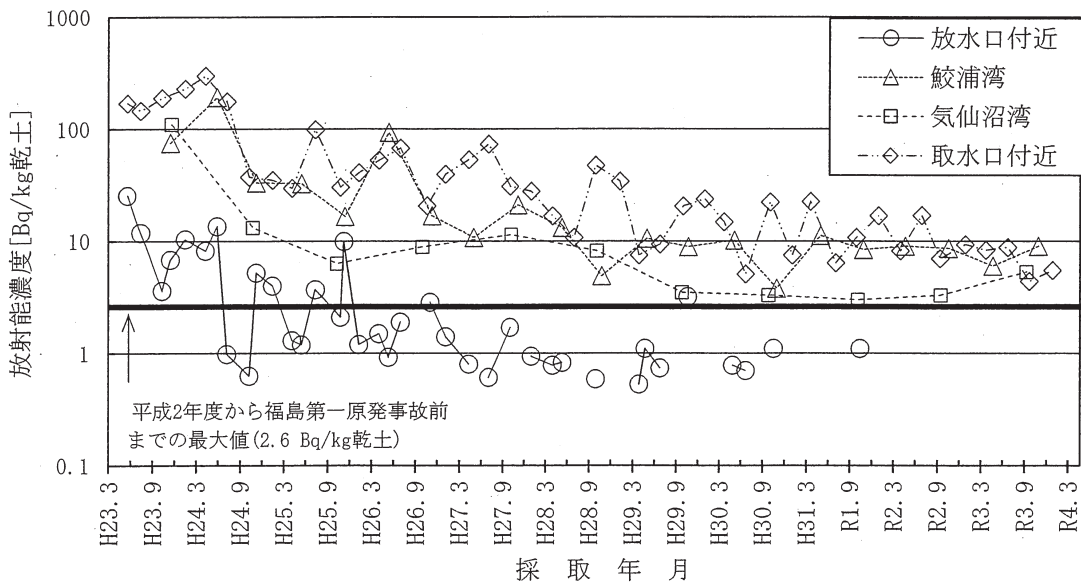


図-19 海底土のCs-137濃度の推移

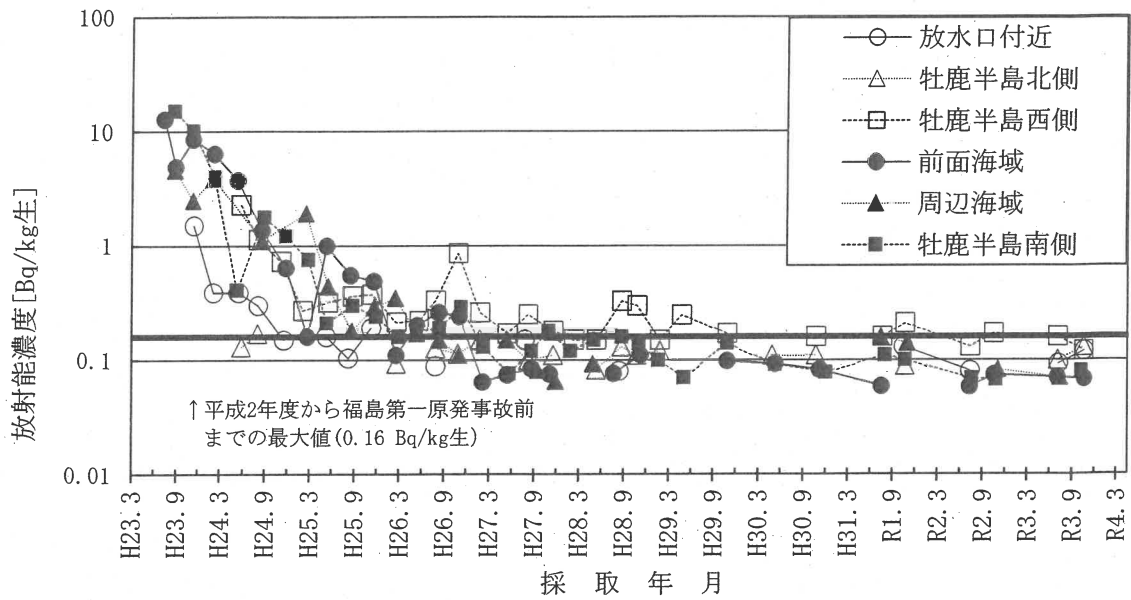


図-20 アラメのCs-137濃度の推移

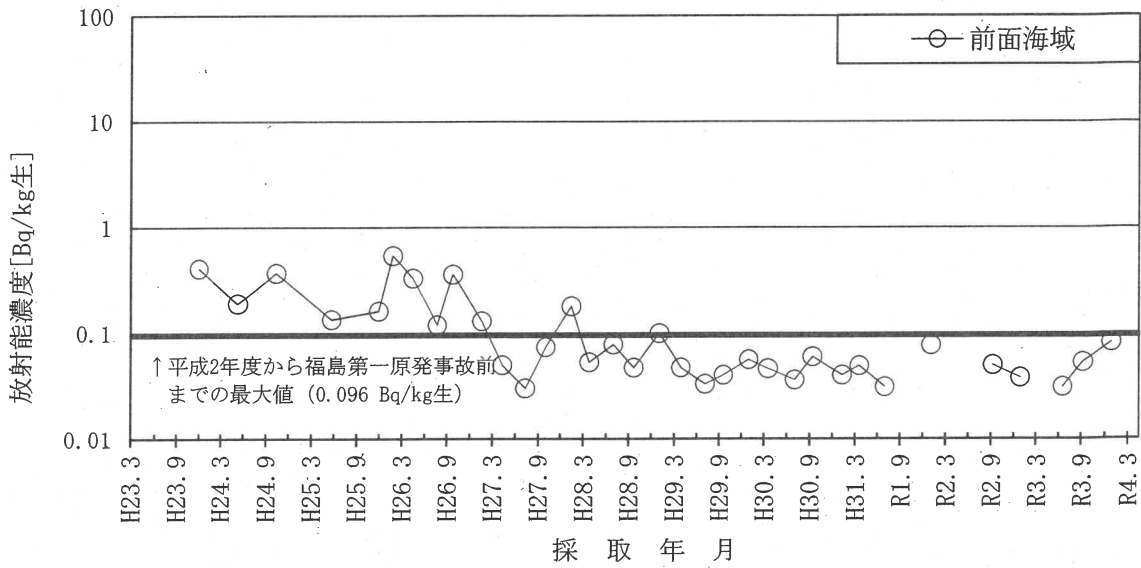


図-21 ムラサキガイのCs-137濃度の推移

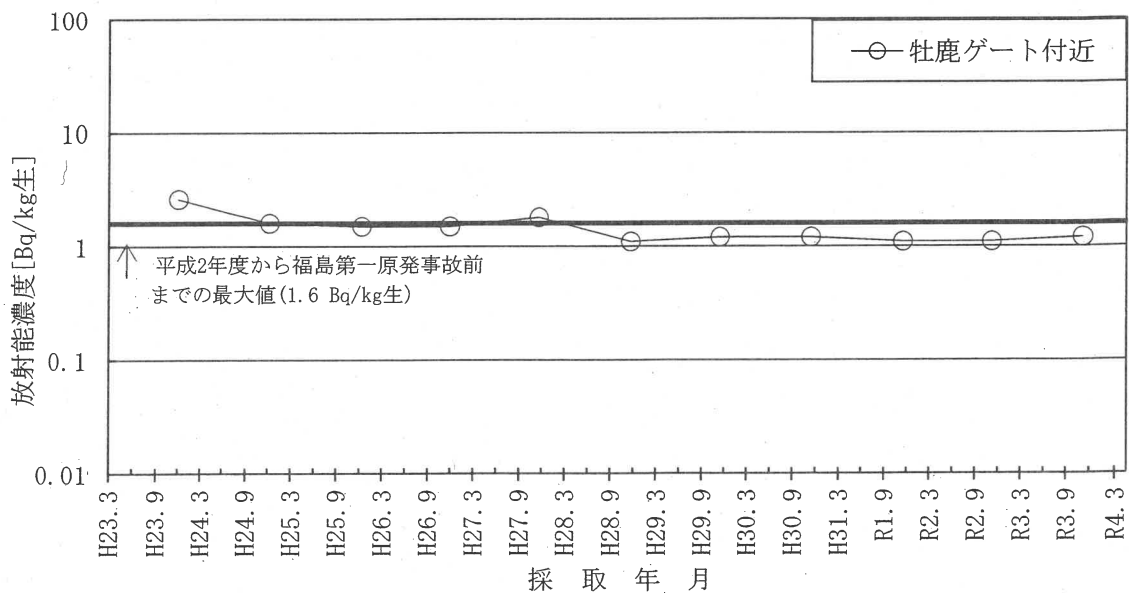


図-22 陸土のSr-90濃度の推移

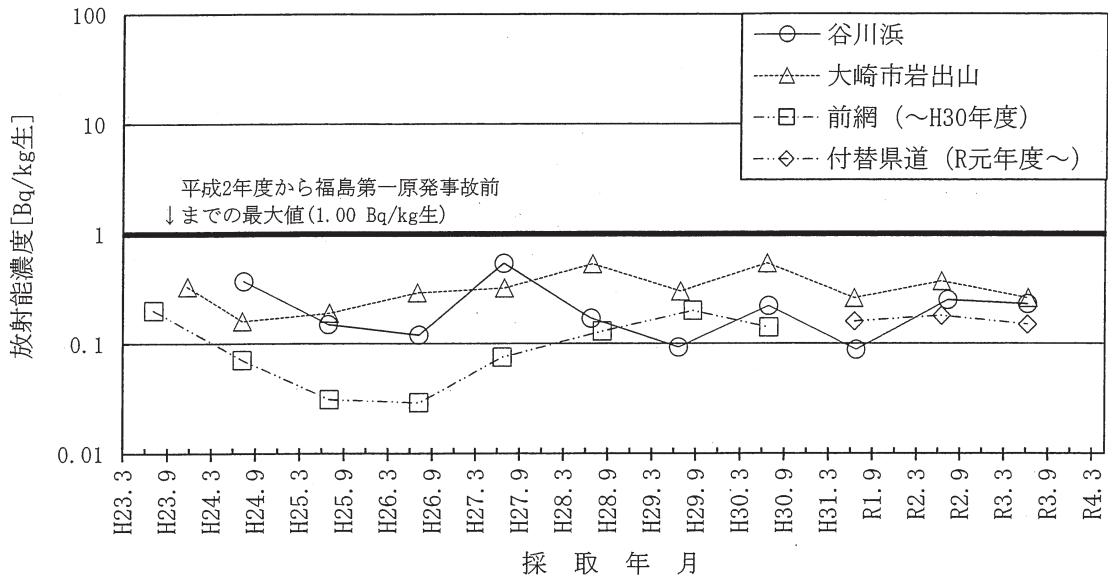


図-23 ヨモギのSr-90濃度の推移

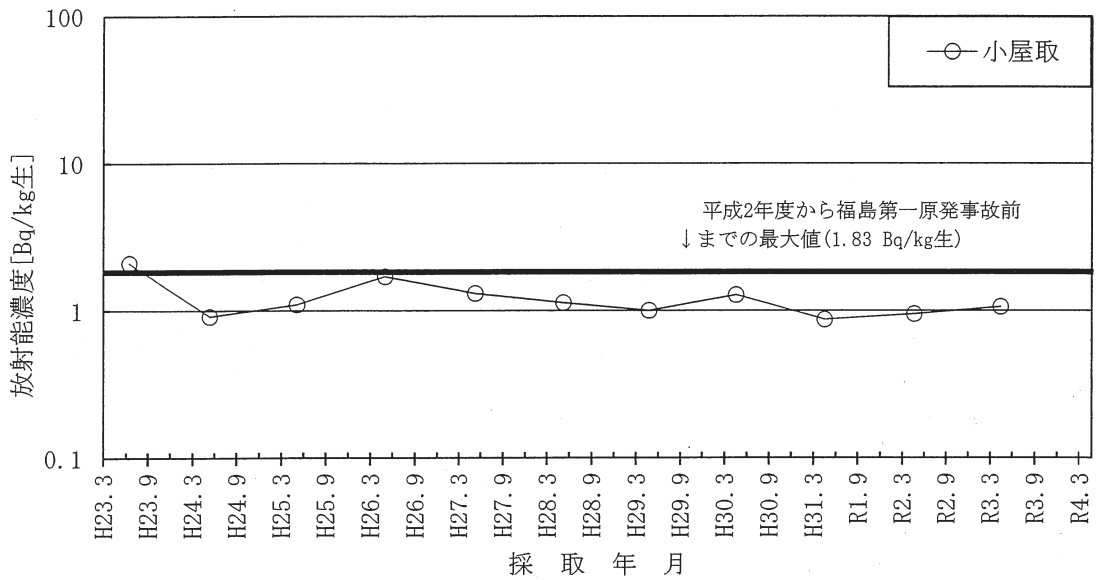


図-24 松葉のSr-90濃度の推移

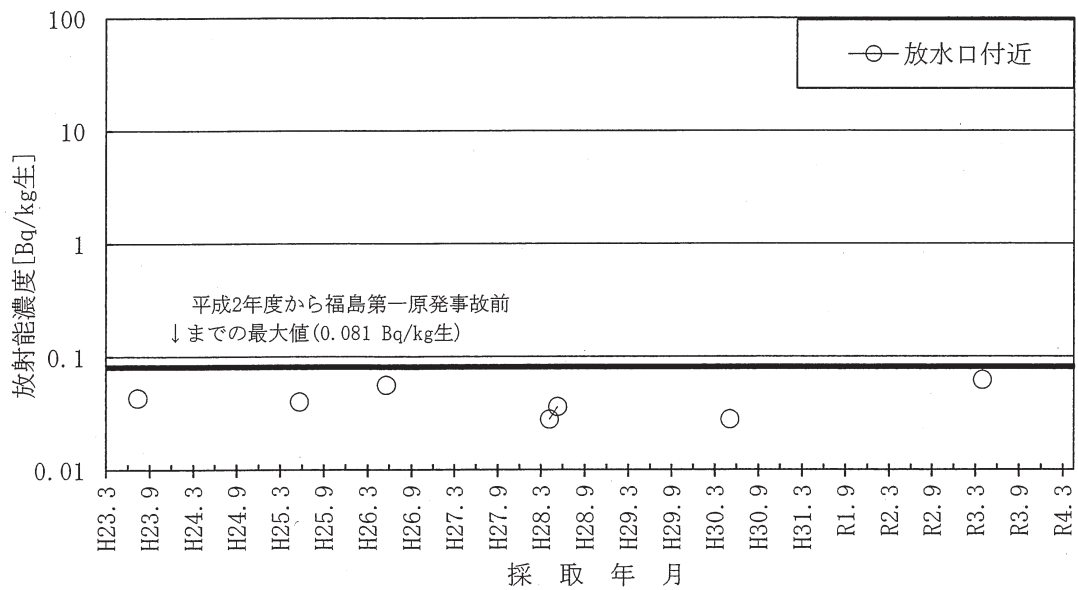


図-25 ワカメのSr-90濃度の推移

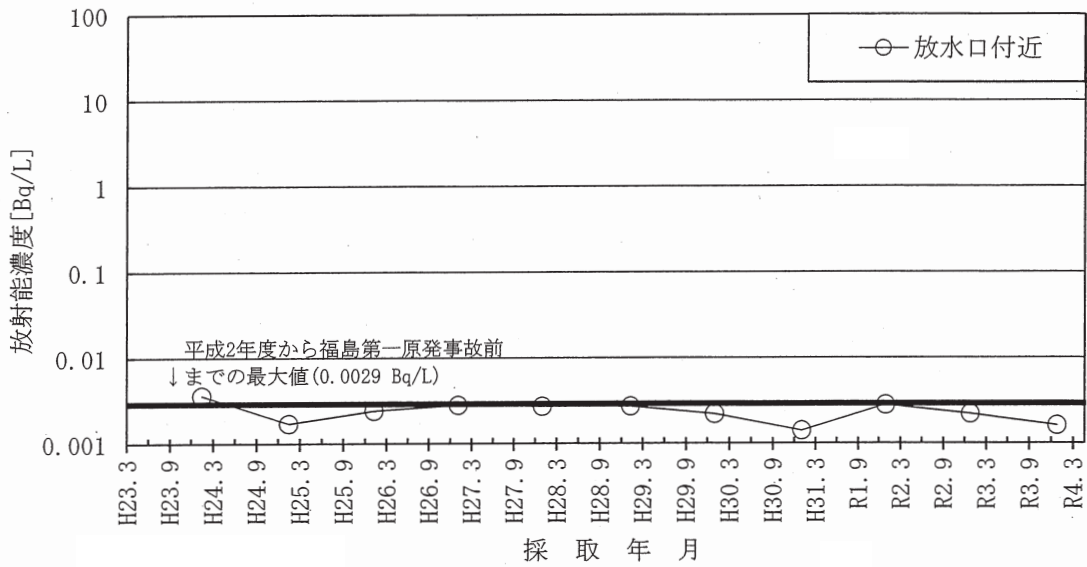


図-26 海水のSr-90濃度の推移

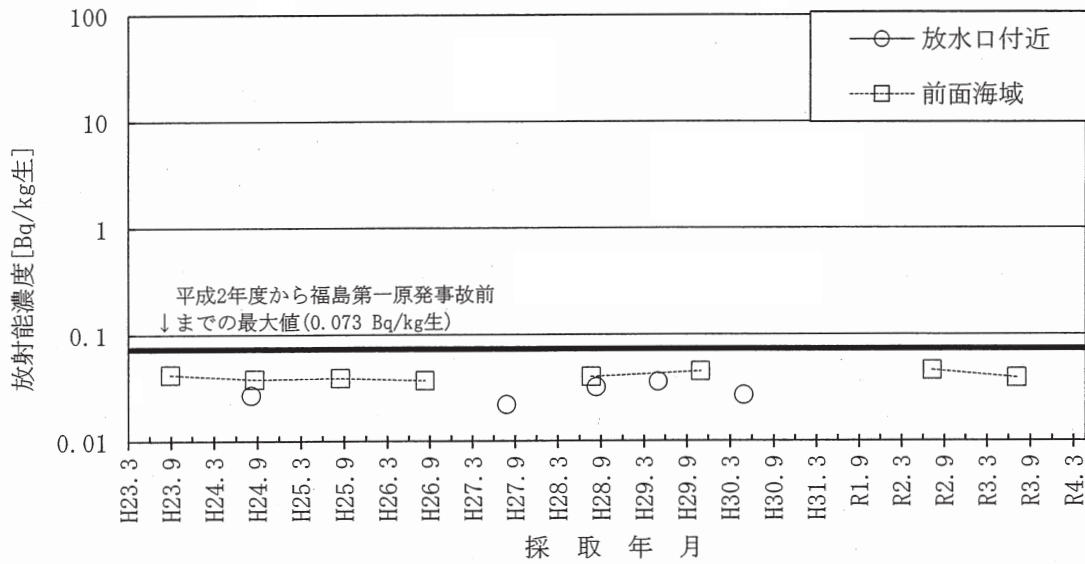


図-27 アラメのSr-90濃度の推移

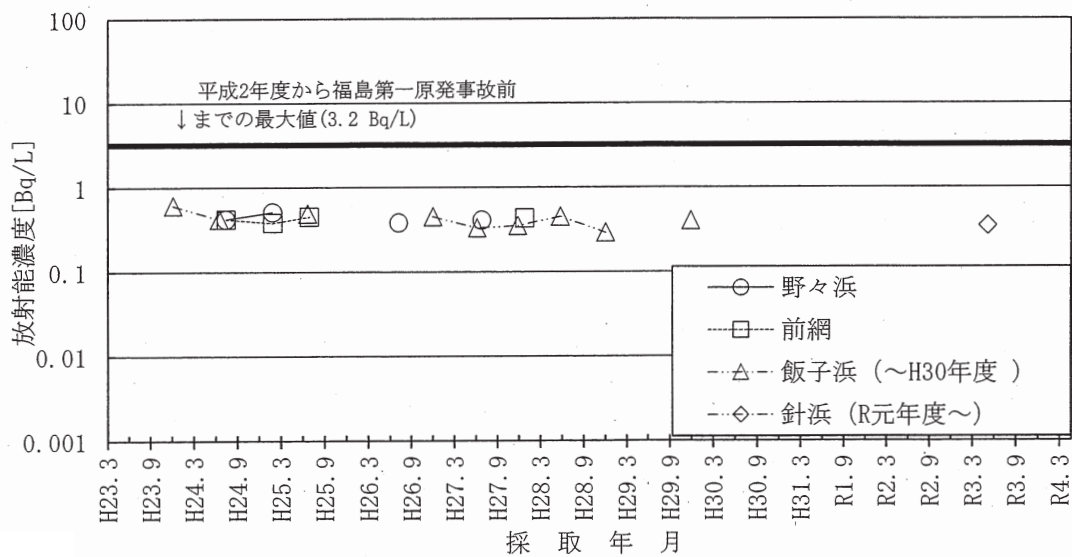


図-28 陸水のH-3濃度の推移

表一 6 空間ガンマ線積算線量測定結果

調査機関	令和3年度測定値					前年度までの年間積算値*1 最小値～最大値(参考)
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間積算値	(上段)S57年度～H21年度 (下段)H22年度～R2年度*2
宮城県	0.12 ～ 0.19	0.12 ～ 0.19	0.12 ～ 0.19	0.12 ～ 0.19	0.49 ～ 0.77	0.43 ～ 0.78 0.52 ～ 0.85
東北電力	0.13 ～ 0.18	0.14 ～ 0.19	0.13 ～ 0.19	0.13 ～ 0.18	0.54 ～ 0.75	0.50 ～ 0.85 0.53 ～ 1.31
単位	mGy/90日					mGy/365日

*1 福島第一原発事故の前後に分けて過去の測定値の範囲を表示した。なお、測定地点を移動した大谷川、桃浦及び横浦の移動前データと震災の影響により参考値扱いとしたデータは含まない。

*2 宮城県分の平成22年度～平成23年度は震災の影響により設備や測定機器が流失したため欠測となった。

表一 7 移動観測車による空間ガンマ線量率測定結果

調査機関	令和3年度測定値				前年度までの測定値*1 最小値～最大値(参考)
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	(上段)S60年度～H22年度 (下段)H23年度～R2年度*2
宮城県	R3.5.24	R3.8.23	R3.11.19	R4.2.9	20.0 ～ 61.8
	29.3 ～ 64.5	29.7 ～ 63.5	29.7 ～ 68.5	28.2 ～ 63.4	27.5 ～ 133.0
東北電力	R3.5.20	R3.8.6	R3.11.29	R4.2.24	20.0 ～ 59.2
	28.7 ～ 51.9	29.3 ～ 52.2	28.9 ～ 51.2	28.5 ～ 51.0	28.0 ～ 123.3
単位	nGy/h				

(注) 一部の地点では、震災の影響により、従来の測定地点付近において測定した。

*1 測定地点を固定した昭和60年度からの測定値の範囲を福島第一原発事故の前後に分けて表示した。

*2 宮城県分の平成22年度第4四半期～平成23年度第4四半期は、震災の影響により欠測となった。

(3) 実効線量の評価

女川原子力発電所環境放射能測定基本計画及び同実施計画に基づく環境モニタリングの結果、女川原子力発電所の運転状況及び放射性廃棄物の管理状況から判断して、同発電所に起因する周辺住民の被ばくは認められなかったことから実効線量の推定は省略した。